

演題：アレルギーを引き起こす新しい細胞

講師名：茂呂 和世(もろ かずよ)

学歴：平成 15 年 日本大学歯学部 歯学科卒業

平成 19 年 慶應義塾大学医学研究科 博士課程単位取得満期退学

平成 22 年 博士(医学)取得

職歴：平成 19 年 慶應義塾大学医学部 微生物学免疫学教室 特別研究助教

平成 24 年 理研 IMS 上級研究員(H24~H27)/チームリーダー(H27~現在)

平成 25 年 横浜市立大学生命医科学研究科 客員准教授(H25~H28)/客員教授(H28~H31)

平成 31 年 大阪大学医学系研究科 生体防御学教室 教授(現在・本務)

平成 31 年 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫・アレルギー教室 教授(現在)

講演の概要：

100年前の日本にはアレルギーを患う患者さんはほとんどいませんでしたが、この50年でアレルギー患者は急速に増え、今では国民の2人に1人がなんらかのアレルギーをもっていると言われています。アレルギーは症状が出る部位によって病名が変わります。腸管では食物アレルギー、肺では気管支喘息、皮膚ではアトピー性皮膚炎、鼻ではアレルギー性鼻炎と呼ばれます。患者さんの増加と共にアレルギーに関する研究は進み、アレルギーを引き起こす細胞が同定され、アレルギーを改善するための薬の開発も進んでいます。しかし残念ながら今のところ、アレルギーを根本的に治すことが出来る治療法はなく、最新の治療法はとて高額なため、多くの患者さんが未だにアレルギーに悩まされています。

私たちの研究室ではアレルギーを引き起こす細胞を2010年に同定しました(右図)。2型自然リンパ球(Group 2 innate lymphoid cells: ILC2)と名付けた細胞はこれまで知られていたアレルギー発症機構とは大きく異なる方法でアレルギー性炎症を誘導します。この講演ではアレルギーが増加している原因と ILC2 の研究を進めることで何がかわるかを紹介します。

